



京浜臨海部における環境分野の取組

2011年2月15日

川崎市 総合企画局

神奈川口・臨海部整備推進室

室長 小林 延秀

明治末期の川崎臨海部

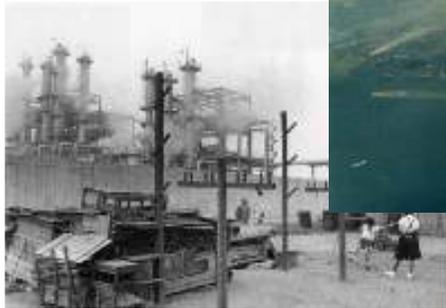


現在の川崎臨海部



公害問題の克服に向けた取組の経験

1960年代の川崎臨海部



現在の川崎臨海部



川崎臨海部における環境技術に関する取組（地球環境・エネルギー）



現在の川崎臨海部



殿町3丁目地区における環境分野の研究開発の中核拠点の整備

—環境総合研究所の整備—

■羽田空港に近接する川崎区殿町3丁目地区に、国際競争拠点形成を先導する中核施設の一つとして環境総合研究所を整備

- 低炭素社会の構築や地域の環境問題の解決などに向けて、環境施策をさらに計画的・科学的に推進
- 国立環境研究所や大学等の研究機関、優れた環境技術を有する市内企業等と連携し、環境に関する総合的な研究を推進

環境総合研究所に導入する5つの機能

◆導入機能1

「都市と産業の共生」を目指した研究(産学公民連携共同研究)

◆導入機能2

川崎の優れた環境技術による国際貢献の推進

◆導入機能3

川崎の優れた環境技術情報の収集・発信

◆導入機能4

更なる環境改善と環境汚染の未然防止のための監視・調査・研究

◆導入機能5

多様な主体と連携した環境教育・学習

殿町3丁目地区における環境分野の研究開発の中核拠点の整備

—環境総合研究所の整備—

■環境分野の中核拠点として、最先端の環境技術を発信

- 最新の環境技術の導入やサンプル展示など情報発信
- CO2削減効果など環境技術の見える化の推進
- 館内ば環境技術が体感できる企画の開催、臨海部エコツアーの1拠点

環境に配慮した設計

<建築面の環境配慮>

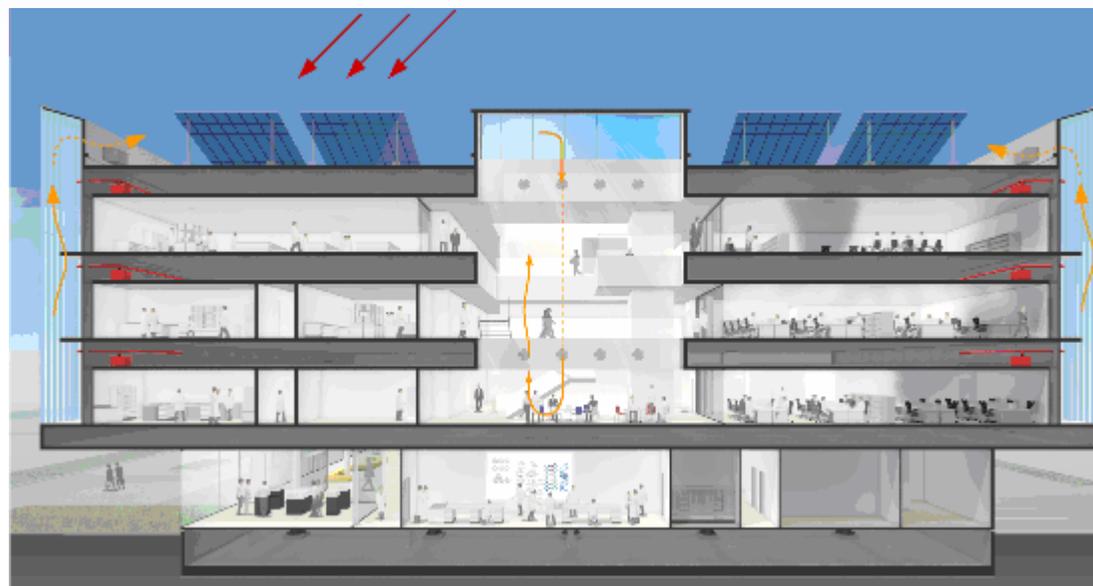
- ◆熱負荷を軽減する二重外壁
- ◆環境装置としての吹き抜け

<先端的な環境配慮技術の採用>

- ◆BEMSの活用
- ◆照明・空調の自動制御

<自然エネルギーの活用>

- ◆太陽光発電
- ◆太陽熱・地中熱の利用

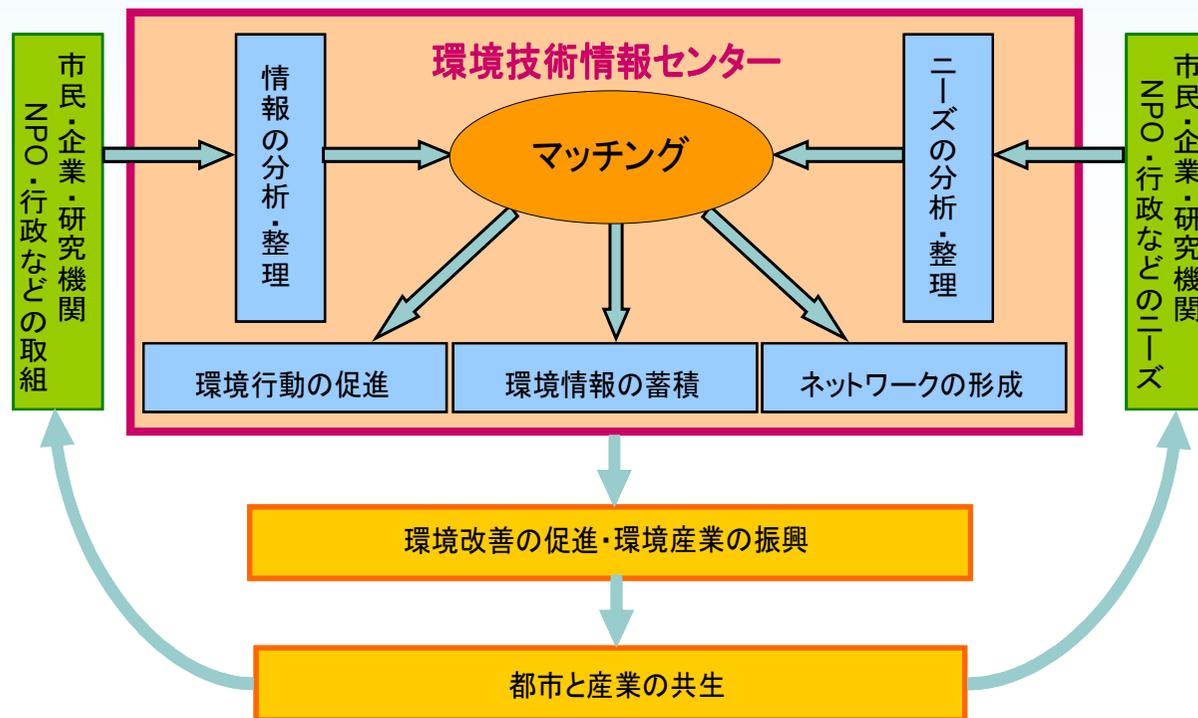


殿町3丁目地区における環境分野の研究開発の中核拠点の整備

—環境総合研究所の整備—

開設に向けた取組（環境技術情報センターの活動）

- ◆環境総合研究所の整備に先駆けて、平成20年に環境技術情報センターを開設
- ◆環境技術情報の収集・発信、産学公民連携共同研究、国際協力事業など都市と産業の共生を目指した取組を推進

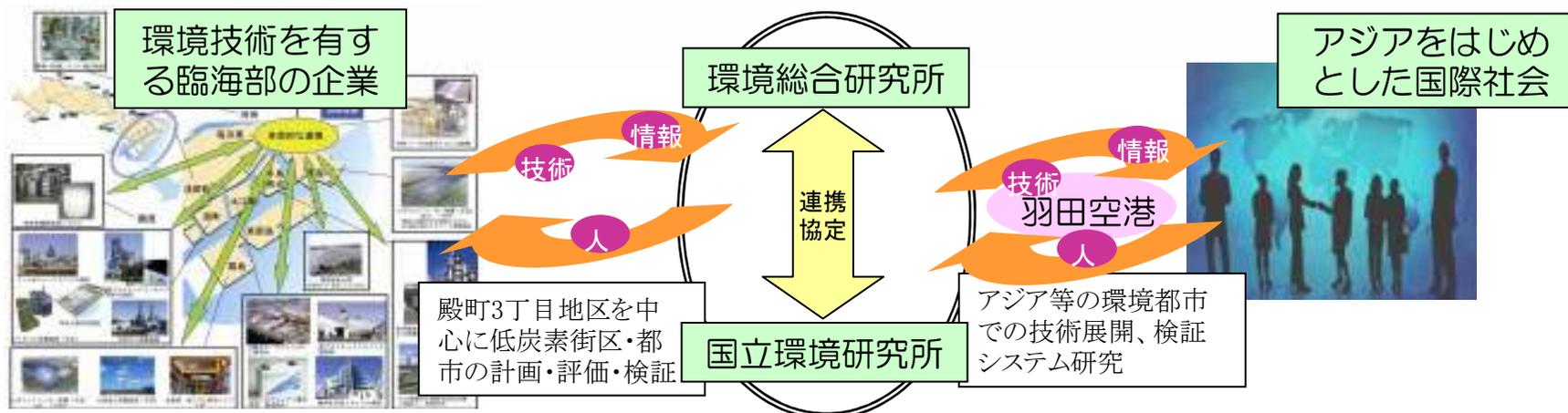


国際競争拠点形成の構想と連動した川崎発グリーン・イノベーション

■国際競争拠点形成に向けた構想と連動し、環境総合研究所が中核拠点となって、さらなる環境技術研究開発を推進

- 高度な環境技術が集積するフィールドを活用した研究開発の推進により、低炭素都市としての川崎の持続的発展に寄与
- 川崎発「都市と産業の共生モデル」をパッケージとして発信し、国際社会の一員として地球全体の持続的発展に寄与

グリーン・イノベーション・ネットワーク(案) による 環境技術情報・環境技術評価・環境都市計画手法の研究



担当 川崎市 総合企画局 神奈川口・臨海部整備推進室
電話 044-200-3633
FAX 044-200-3540

(平成23年2月15日)